

大志を育む



令和5年7月21日
(教職員向け)
教育委員会だより
No. 53

発行：北広島市教育委員会

特別支援教育の充実を目指して ～アセスメントの大切さ～

教育支援課 指導主事(特別支援教育担当) 石川 和男

「特別支援教育」は、子どもたち一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び支援を行うものです。「障がいの程度」等に応じて特別の場で指導を行うという考え方から、「教育的ニーズ」に応じて適切な教育的支援を行うという考え方に変わりました。「特別支援教育」によって、通常の学級で発達障がいの可能性のある子どもたちの教育にも支援の範囲が広がりました。「特別支援学級」の子どもだけでなく、通常学級の子どもも含めた教育です。

さて、「特別支援教育」では、子どもたちの困っている状況やつまづいている具体的な課題を把握し、その背景を考え、対応することを大切にします。つまりアセスメント(実態把握)をもとに支援するという事です。そして、さらにネガティブな問題行動だけではなく、問題のなかった時やよくできたことも見ていきます。「どうしてそのときは問題が起きなかったのか、どうしてうまくいったのか」を考えることで、次の手立てが思いつき、希望が見えてくると思います。

「学習障害」(「読む」ことが苦手なお子さんが苦勞している例です)

ぬいとうつとこめのなやでちぼんああさこ
どうぶしほなおた?

※上の文を、下のように字を変換して解いてみましょう。

ぬ⇔ね⇔め		い⇔こ
つ⇔し	や⇔か	は⇔ほ
あ⇔お	さ⇔き	た⇔に

ワーク：左の文章を読み、答えを考えましょう。読むことが苦手な子どもの気持ちを感じて(疑似体験して)みます。

読みに不安があり、「逐次読み」(一文字ずつ読むため、詰まったり、遅かったり、文の意味が理解できない)になる気持ちの体験です。「真面目に読みなさい」と言われると、イライラしたり、やる気がなくなったりしますよね。

読むことが苦手な人の実際の見え方は、人それぞれです。文字が揺らいで見えたり、鏡文字になって見えたりすること等が知られています。

答え



答え合わせはこちらの二次元バーコードで確認できます→

- ◆ 教育支援課では、臨床心理士によるカウンセリングを行っています(子どもサポートセンター ☎ 011-372-3311(内線 4832)毎週水曜日 9時40分~16時40分・要予約)。また、スクールソーシャルワーカーによる相談も行っています。子どもに関する保護者・先生方への支援、関係機関等との連携、ネットワークづくりなどにも対応しますのでご相談ください。



広葉中学校区では、「中学校を卒業する子どもの理想の姿」を共有し、義務教育9年間をひとまとまりと捉え、系統的な教育活動が漸進するよう全教職員

で取り組んでいます。「めざす子ども像」(↑)や「スタンダード」(→)を意識して、今までの指導案をもとに、ブラッシュアップをかけながら持続可能な取り組みになるよう工夫しています。「共に学び、共に高め合う」には、さまざまな活動での学び合い、関わり合いを通して、お互いに高め合える集団となり、個人の成長にもつながってほしいという願いを込めています。今年度は、教職員が変わっても持続可能となるよう、昨年度と同様の組織で進めています。「推進部会(めざす子ども像やスタンダードを実現する取組)」と「教科部会(小中一貫教育授業の実践)」の2つの部会に全教職員が所属し、年間5回の小中一貫教育会議を行っています。小と中の先生方が顔を合わせて、建設的に話し合いをしています。



「めざす子ども像」(↑)や「スタンダード」(→)を意識して、今までの指導案をもとに、ブラッシュアップをかけながら持続可能な取り組みになるよう工夫しています。「共に学び、共に高め合う」には、さまざまな活動での学び合い、関わり合いを通して、お互いに高め合える集団となり、個人の成長にもつながってほしいという願いを込めています。今年度は、教職員が変わっても持続可能となるよう、昨年度と同様の組織で進めています。「推進部会(めざす子ども像やスタンダードを実現する取組)」と「教科部会(小中一貫教育授業の実践)」の2つの部会に全教職員が所属し、年間5回の小中一貫教育会議を行っています。小と中の先生方が顔を合わせて、建設的に話し合いをしています。



今年度は、教職員が変わっても持続可能となるよう、昨年度と同様の組織で進めています。「推進部会(めざす子ども像やスタンダードを実現する取組)」と「教科部会(小中一貫教育授業の実践)」の2つの部会に全教職員が所属し、年間5回の小中一貫教育会議を行っています。小と中の先生方が顔を合わせて、建設的に話し合いをしています。

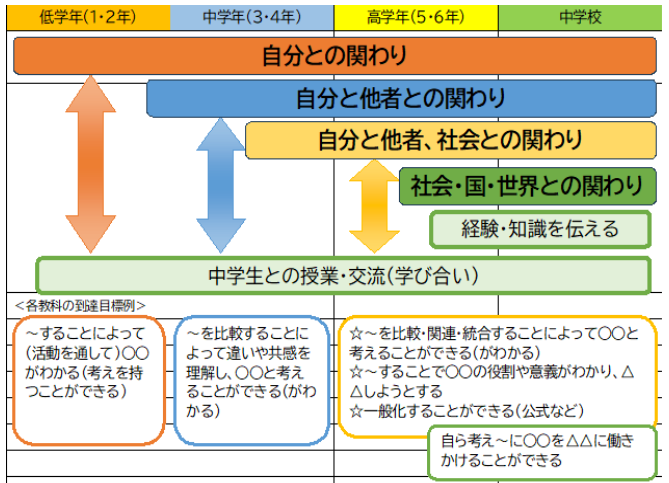
【研究テーマの一本化に向けて】

小中一貫教育9年間を通して、「どのような児童・生徒を育てていくか」を明確にしながら研修を積めるよう研究テーマのつながりを意識しています。

双葉小：「何(なに)」を明確にした教材の開発

広葉中：「自らの学びを構築し、互いに高め合い、学びを楽しめる生徒の育成」
~自ら「問い」をもって授業に臨む主体的で深い学び~

発達段階における小中一貫イメージ及び到達目標→



【今年初！理科の先生が小学校へ乗り入れ授業】

小中一貫教育加配が付き、広葉中学校理科教師が、週2~3回のペースで、双葉小5・6年生へ乗り入れ授業を行っています。小と中の教材準備等忙しいようですが、小学校に無い実験器具を使って授業を行うために、小学生が中学校に登校し、2時間×2回ほどの授業を受けました。中学校の校舎で、目を輝かせて授業に参加している小学生の様子を、中学校の教職員ものぞきにきていました。

